



河合文化教育研究所
主任研究員 丹羽健夫

教育を 読む

戦艦武蔵は、戦艦大和の姉妹艦で、かつて地球上に存在した戦艦のなかでも最大級のものである。全長263メートル、巾38.9メートル、満載排水量71,100トン、主砲46センチメートル砲9門。

ちなみに第二次世界大戦終結時に日本の降伏調印式場となった、アメリカの戦艦ミズーリ号のそれは、全長270.4メートル、巾32.98メートル、満載排水量53,000トン、主砲40.6センチメートル砲9門である。全長こそ僅かにミズーリが勝るが、破壊力は武蔵が圧倒する。

第二次世界大戦（太平洋戦争）以前に日本が直面した戦争は、地理的にも海戦に負うところが大きかった。日清戦争の黄海の海戦しかり、日露戦争の日本海海戦しかりである。何れの戦いにも勝利した日本が、海戦における戦艦の主砲の威力を重視し



『戦艦武蔵』

吉村 昭 著
新潮文庫
定価 550 円+税

たのは、成り行き上当然であろう。

第二次世界大戦の気配が近づいた昭和13（1938）年3月、超弩級戦艦武蔵は長崎造船所で起工された。機密保持のため、船台を見下せるあのグラバー邸は海軍により買取され、船台は棕櫚スダレで隠蔽された。甲子園球場のグランド面積の約2倍の、総面積75,000平方メートルの船台を一枚15メートル×10メートルのスダレ約500枚で覆うのである。スダレを作る棕櫚縄の長さは延2,500キロメートルに及ぶ。このため日本中の棕櫚縄が払底した。

スダレに隠され秘かに工事は進み、昭和15（1940）年10月31日巨艦は進水した。進水のおおりは1メートル20センチの津波のような高波となって湾岸を襲った。

武蔵が主砲その他の艦装を終えて、正式に海軍に引き渡され、艦隊に編入されたのは昭和17（1942）年8月5日である。起工から4年5カ月を経ている。当時の軍艦としては珍しく冷暖房装置も備えたハイカラ艦であった。

そして昭和18（1943）年2月山本五十六司令長官を迎えて、晴れて聯合艦隊の旗艦となったのである。しかし時代は移り、派手な大艦巨砲

の時代は過ぎていた。戦いの中心は航空機に移っていたのだ。

太平洋戦争の冒頭に日本海軍の航空母艦から発進した航空機の魚雷攻撃と爆撃で、ハワイ島真珠湾のアメリカ太平洋艦隊は壊滅し、さらにマレー沖ではシンガポールから出撃した、世界最強を誇ったイギリス東洋艦隊の戦艦プリンス・オブ・ウェールズと巡洋艦レパルスが、日本海軍の中型攻撃機によりあえなく撃沈されていた。航空機の威力が大艦巨砲を圧倒することを日本海軍が示したのである。

その日本海軍の航空機も戦いの末期には米軍の物量の前には壊滅し、昭和19（1944）年10月フィリピン奪還のためレイテ島に上陸した米軍を迎え撃った日本艦隊には、航空機による空の防備は無く裸の突入であった。この突入で武蔵は、米軍航空機による20発の魚雷と18発の爆弾の直撃、18発の至近弾を受け沈没する。乗組員2,399名中生存者は1,376名であった。武蔵の建造費はいまの価格に換算すれば一兆円は下らないであろう。

今日の我々の平和の日々の背景には、第二次世界大戦の膨大な国費の消耗や、尊い人命の犠牲があったことを考えさせる一書である。